

市長講演

「地域力を活かした防災体制の構築 - 沼津市の地震・津波対策 -」

静岡県沼津市長 栗原裕康氏

ご紹介を賜りました栗原と申します。私からは、沼津市の地震・津波対策についてお話をさせていただきますというふうに思っております。

沼津市でございますけれども、この写真に出ておりますように海のところが駿河湾でございます。これは日本一深い湾でございます。約2,500メートルあります。その向こうに富士山が見えておりますけれども、ここがご案内のように約3,700メートルですから、非常に狭い地域で深いところから一番高いところまでであると、こういうところでございまして、東海道の古くからの城下町兼宿場町でございます。

最近、東京の渋谷で白隠禅師の展覧会、もう3カ月位やっております、若い方が随分白隠さんの事績あるいは作品を見に行っているということで、静かな白隠さんのブームになっていると思いますけれども。私ども駿河の国でございますが、駿河の国には過ぎたるものが2つあります。一つは富士のお山に原の白隠という位ですね、原というのはこの沼津市の、この写真でいいますと左側ですね、そこが白隠さんの生地でございます。

ただ、「沼津」という名前でございますのでどう考えても災害には弱いです。よく、ひどい人は、「沼」は底なし沼の「沼」、「津」は津波の「津」と言うんですけれども、どう考えても弱いというところでございます。

沼津市の概要でございますけれども、ここに書いてあるとおりでございます。ただ、私どものまちも全国のまちと同じように人口が減少を続けております。それから、子どももあまり産んでくれない。市役所で婚活をやれという声もありますけれども、責任をとらされるのが嫌なものですから婚活はいっさいやっておりますが、子どもが非常に少ない。結婚しない男女が、若い人たちがごろごろいると、そういうまちでございます。

それから、お年寄り是非常に多くなってまいりました。一番心配しておりますのは郊外ですね。20世紀は、ご案内のようにまちが膨張・拡大いたしまして、郊外の山裾なんかには団地ができておりますけれども、そういうところに住んでいらっしゃるお年寄りが、もう階段も上れなくなってくるような例が増えておりますので、そういう意味では高齢化は非常に大きな問題でございます。それから、これもどの地方都市も同じでございますけれども、中心市街地が非常に衰退をしているというところでございます。

私どものキャッチフレーズといいますかね、まちの目標ですが、これは全国どのまちも同じような金太郎あめみたいなスローガンで大変恐縮でございますけれども、ほかに良いアイデアが無いものですから、相変わらずこんなふうに美辞麗句が並べてあります。

先ほど、養茂先生の講演にもございましたけれども、私どもでは「ぬまづの宝100選」、これをやっております。ちょっと脱線しますけれども、少しこのことに触れたいと思います。

「灯台下暗し」という言葉がございますように、案外自分たちの住んでいるまちのよさを知らない。市民の皆さんがですね。だんだん沼津も衰退していきますと沼津はだめだとか、沼津はいいところじゃないよということを平気で言っているんですが、その人たちが本当に沼津のいいところを知っているのかということとほとんど知らないということで、沼津の宝を探そうということで、私、市長に就任させていただいた4年半前でございますけれども、それからずっと言い続けてまいりました。1年間言い続けて沼津の宝を市民から募集しましたところ、475個集まってまいりました。それを整理して「ぬまづの宝100選」というふうにいたしました。ただ、それでもまだ「ぬまづの宝100選」って何も知らない。ほとんど認知度はございませんが、残念ながらですね。ただ、言い続けております。「ぬまづの宝100選」ですよ、こういうところがありますけれども、市民の皆さんご存じですか、知っている方は手を挙げてくださいますと会場の3分の1位しか手を挙げない。項目によってはほとんど知らないというような状況ですけれども、これは「継続は力なり」でございますので、一生懸命今やっているところでございます。例えば、沼津の宝、主に景色、食べ物、文化、芸術、そんなところでございます。景色等につきましては、これは全国で売ろうということで、映画やテレビのロケを積極的に誘致しています。これは4年前からやっております。去年の春ヒットしました映画で「わが母の記」というのがございました。これは井上靖さんの原作で、私の高校の一つ後輩でございますが、原田真人という監督がやりました。たぶん、今年の日アカミー賞の最優秀をとるんじゃないかなと私は期待しておりますけれども、そういう映画は沼津を舞台にした映画でございまして、ここがロケ地に選ばれて、我々も非常に協力していい映画ができました。そういうことをやっております。

それから、沼津といいますとたぶん干物なんかを思い出す方が多いと思いますけれども、先ほど言いましたように駿河湾は日本一深い海でございまして、深海魚ですね、白身です。しかも養殖物はいっさいありませんから。その白身の魚を使って昔から寿司が大変おいしいというところでございまして、「ぬまづの宝100選」には当然、寿司も「沼津の寿司」と選ばれております。何か特別な寿司があるのかというと、別に特にありません。アジ寿司なんかは割とあ

りますけれども、寿司屋のレベルは大変高うございます。

ただ、よその方が来て寿司屋さんに座って、しかもカウンターに座るといのは相当勇気が要りますね。いくら取られるかわかりませんから。そこで、私どもがやっておりますのは、「カウンターで寿司食いねエ i n 沼津」というのをやっております、そのキャンペーンに協力していただいている店が今25店舗あります。そこへ行って、もし今日ご来場の方たちも沼津へ行って、寿司がうまいと栗原が言っていたから食べてみようと。寿司屋へ行ってカウンターで「寿司食いねエ」というのをやっていますかと、やっていると言ったら、カウンターへ座っていただきますと3,150円で、食べ放題ではございませんけれども、その店のその日獲れたいろんな寿司が一つ一つ丁寧に握って出てくるという、そういう仕組みを今つくっております。

ちょっと話が脱線してすみません、次へいきましょう。3.11以前の沼津市の防災・津波対策ということです。

私どもの沼津は、先ほど言いましたように名前からいって大変災害に弱い地域でございますけれども、3.11以前は東海沖地震、これはマグニチュード8.0でございますが、これが起きた時に一体どうなるんだろうという想定をいたしておりました。これは、県が第三次被害想定というのをを出していただいて、それに基づいて私どもは防災対策をやってまいりました。その東海沖地震マグニチュード8.0が起きた時というのは、県下で沼津が一番大きな被害を受けるといふふうに言われております。

したがって、これはあそこに富士山が見えますけれども、上の写真は千本松原という駿河湾に面した砂浜です。ここに、国土交通省さんが大変大きな防潮堤をつくっていただいております。それから、この下は今大変ブレイクしております沼津港の入り口にある水門です。これは津波が来ますと地震を感知して、たぶん3分ぐらいでドッと下がります。そういう水門ですね。これは津波避難タワーです。平成18年から21年度だから3.11の前ですね。3基つくっています。これも自然の地形を利用したマウントですね、そういったものをつくってございました。

3.11以前は、そういったことで津波避難ビルも指定をし、津波避難路も整備をしておりましたけれども、市民の感覚が全く、東海沖地震が来る来ると言われておってもう30年、40年経っておりますので、ほとんどもうあんなものがあるねという程度でございました。

次に、3.11以降でございます。3.11以降は市民の意識が、それこそ劇的に変わりました。これはどこも同じだと思います。特に、3.11直後は市民の皆さんがいろいろ心配をして、例えば、3.11以前はこういうことがあったんです。同報無線というのはご存じですね。いわゆるラジオやテレビが停電で聞こえなくなった時に、無線で市民に避難やそういったことについての災害

の情報をお知らせするという同報無線というのがございます。これが、平常時でございますと100件のうち99件が、ちょっと認知症のお年寄りがどこかへ行っちゃって探していますという、そういう警察からのお知らせをどうしても入れるんです。ですから、3.11以前はそれはうるさいと、うるさくて、どこそこのぼけたじいさんがどうしようが俺たちの知ったことじゃないというようなことで相当苦情が来たんです。ところが、3.11以降は同報無線が聞こえないと、災害情報がこれじゃ聞こえないじゃないかというようになります。そのぐらい変わります。市民は勝手ですから。

例えば防災ラジオ、この防災ラジオも3.11以前に、たしか5,000台、もちろん税金を使わせていただいてつくって、停電になっても聞こえるラジオ、その同報無線がちゃんと入るようなラジオをつくりました。売り切るのに大変苦労しました。2,000円で売ったんですが、あちこちの事業所に頼み込んで売りました。ところが3.11以降、あれはどうしたと、あのラジオはどうなったと。いや、もう在庫がありませんと。すぐつくれと行ってつくりましたら飛ぶように売れて、応募台数よりも半分位しかつくってありませんでしたので、またそれでもひどく怒られたと、こういうことでございましてがらっと変わりました。

3.11以降ですね、私のところに、もし沼津に東日本大震災のような大津波が来たら一体どうなるんだと。地形がちょっと似ているんですね、東日本と。特にリアス式のところが。どうするんだ、どうするんだというので、私が「逃げてください」と一言言ったら、たったそれだけかと、ほかに何か無いのかと言うんですが、結論的に言うとそういうことでずっと貫いてきております。

次に、これは3.11以降の対策でございますが、とりあえず、緊急地震・津波対策アクションプラン、こういう言葉大好きですから、役所は、これをつくりまして、3.11以前は、先ほど申し上げましたように東海沖地震というマグニチュード8.0、今度起きる地震というのはマグニチュード9.0、こう言われておりますんで、その科学的な知見が出るまでとりあえず、私ども1854年に安政東海地震というのがありましたので、その時に浸水したところまで逃げると、そういう設定をした上で、訓練をしております。それから、津波避難ビルも新たに指定をし直したということでございます。

それから、看板ですね。いわゆる津波避難路。それから避難路にですね、例えば夜中に地震が来た時に山の中へ通じる道ですと真っ暗になりますので、太陽光発電で蓄電できる、そういうものもつくっておりますし、それからハザードマップ、これは、とりあえずは今年の8月27日だと思いましたがけれども、国の中央防災会議が出した浸水深のものを写して出しました。そ

れから、防災ラジオも、有料ですけれども2,000円で飛ぶように売られていますけれども、こういうものもつくってきたと、こういうことでございます。

ちょっとおもしろいのは、レジュメには出ておりませんが、ここの地盤は海拔何メートルかというのを海のそばの都市はみんなつくっていると思いますけれども、沼津ももちろんつくっております。それは大体電柱に張ってあるんですね。電柱の1メートルぐらいのところに張ってあるんです。私の近所の中小企業のおやじさんが、「ここの地盤は」と書いてあるでしょう、「ここの地盤は海拔1.0」と書いてあると。電柱の1メートルぐらいのところにありますんで、そこと勘違いするんですね。おわかりになりますか。電柱の1メートルぐらいのところあると、そこが1メートルあるというふうに思っていちゃる。だから、地面は海拔ゼロだと思っちゃうんですね。地盤高と書いてあるんですよ。でも、地盤高という言葉になじみが無いんですね。「地面は」と書けばいいんですよ。そういうことは全然私どもも気がつかないですね、言われてみないと。そういうようなことが、ちょっと脱線しちゃいましたけれどもございました。

そして、これは避難タワーです。先ほども言いましたように、私どもは3.11以前から津波避難タワーを3基つくっておりますけれども、3.11以降はですね、住民の皆様方に聞きますと絶対あそこには逃げないねと、こう言うんですね。海のそばですから。海に向かって逃げるといのは相当な勇気が要るんですよ。しかも、これはもちろんご案内だと思いますけれども、大変頑固な基礎を持っていますよ。基礎持っていますけれども、3.11の映像を見ちゃいますと絶対倒れると思うんですね、みんな。それで、これは全く無用の長物になっちゃいました。残念ながら。

で、今考えておりますのは、それでは逃げていただけるか、本当に使っていただけるかわからないけれども、こういう津波避難タワーに代わる築山をつくっちゃおうと。ちょっと面積がたくさん要りますけれども。普段はそこでお子さんやお年寄りがゲートボールをやったりなんかする、ちょっと図が急峻な山になっていますけれども、もう少し緩やかな山で、ふだんはお子さんが遊んだりお年寄りが遊べるような広場にして、いざという時に逃げ込めるような築山です。大体標高11メートルぐらい、海拔11メートルぐらいのものをつくってこういうふうに思っています。津波避難タワーがいざとなったら全く使われないということがわかりましたので、そうはいつでも何かつくらなければいけませんので、こういう築山をつくる。

ついでに申し上げますと築山は土地代だけ、土代だけです。土の値段が主です。これは、県とか国にお願いをして、どこかトンネルを掘った時の土があったらちょうだいねということで、今もうあげるよということですから、ほとんどタダ——タダいうわけにはいきませんが、

土代はゼロでできるということでやっております。

これもちょっとテレビや新聞でだいぶ注目されましたけれども、沼津市の、これは一番南側でございます。海のところは駿河湾です。これはリアス式海岸みたいになっておりまして、だいたい、今ここに問題になっている重須という地区があるんですけれども、第三次被害想定で10.4メートルの津波が押し寄せるといことで、過去の記録を見てもほとんど集落は壊滅しております。安政の大地震、150年前の時も壊滅しておりますので、ここの皆さんが410人、123世帯。平成24年8月29日に内閣府の公表した最新の推定津波高は8.6メートルでございますので、10.4メートルからは少し下がりましたがけれども、それでも集落全体がやられることは間違いございません。

そこで今、集団移転を検討することにしております。もちろん被災を受けた東日本の東北の皆様方は、海岸部の集落が高台に移転をするというのを今一生懸命やってらっしゃいますけれども、予防的に、災害が来る前にやろうとしているのは、この沼津の重須というところが初めてでございますので、全国的に非常に注目されております。ただ問題は、国の集団移転の補助制度があるんでございますが、事業主体は市です。費用の4分の3は国が持ちましよう、あとの4分の1は市で持ちなさいねと、こうなっています。しかも上限が1,600万円、1世帯当たり1,600万円。要するに、平地から高台に移転をする、その造成費からいっさいがっさいが1,600万円以上はもう知りませんと、こういうシステムになっています。

東北の方の例を調べますとだいたい3,000万円から5,000万円かかっていますので、これはちょっと大きな、実は私どもとしては大きな重荷でございます。ただ、地域の皆様方が逃げたいと、自分たちの子孫のために津波の危険なところに住みたくない、こうおっしゃっていますので、それに対して私どもが、お金が無いからできませんねと、そういうことはなかなか言えないということで、今、中立の立場で勉強会をしていただいております。勉強会については、北海道大学の森傑先生、この方は奥尻島の知見を持っていらっしゃるということであって、国土交通省さんからご推薦をいただいて、この方を中心に今勉強会をしております。ここに書いてありますように、怖いからすぐ行くというんじゃなくて、集団移転をしたらどうなるんですかと、そういうかなり冷静な議論を、平成24年7月からですから、もう半年ちょっとで5回やっています。ただ、問題はお金が結構かかるんですね。250万円。今年は本当はもうちょっと要求があったんですけれども200万円に削っちゃったんですが、これについて、国はいっさい面倒を見てくれません。県も面倒を見てくれません。

実は沼津で、今言ったような集団移転をしたいというところは、今は重須というところだけ

でございますけれども、同じような地形がいくつもありますので、これは私どもにとって大変大きな重荷でございます。ただ、先ほど申しましたように地域の皆様方が100%まとまって、この防集法を適用してくださいといった時に我々地方自治体は拒否できませんので、お金の問題と絡めて頭の痛いところでございます。

それから、これはもう当たり前のことでございますけれども、行政に何とかしろ何とかしろと言っても、先ほど私が言いましたように「とにかく逃げるしかありませんね」と、こう言っていますので、皆さん一生懸命自主防災をやっています。逃げてくださいと言ったら、本当に転居・転出しちゃう人が結構いるんですね。海のそばってどうしても、特にお子さんを持っていらっしゃる方は海のそばの小学校や中学校に通わせたくないという方がいらっしゃるんですね、私どもの周りは結構豊かなまちが多いものですから、そのまちに移転をするということがございます。ただ、遠くには逃げていけないので大丈夫ですけども、そんなことをやっています。

今申しましたように正しく恐れる、そして、とにかく自分で、自助努力できちっと逃げてくださいと。当然それは自分だけというよりか町内会単位ですね。地域、コミュニティーごとにまとまって逃げる、こういう自主防災訓練をしております。ただ、私ども3.11から2年近く経ちますけれども、あの映像は繰り返し繰り返し放送されますので、そのたびに市民の皆さんは恐怖を感じますね。で、特に今まではマグニチュード8.0の東海地震、この約32倍のマグニチュード9.0の南海トラフが来るというふうに言われておりますので、津波もものすごいのが来るんじゃないかと思っているんですね。

先ほど言いましたように、8月29日に国の中央防災会議が津波と浸水深を出しました。それによると、幸いなことに沼津はマグニチュード8.0の東海地震よりも、場所によってはそんなに高い津波は来ないところになっているんですよ。これはどういう理屈かよくわかりませんが、ところが、住民の皆さんは絶対信用しないですね。例えば、海のそばのある地域に行くと、この地域の浸水域はゼロですよと、したがって浸水深はゼロですからこの地域には津波は来ませんと私がいくら説明してもです。特に若いお母さんたちが、絶対そんなことはない、必ず津波は来ると、こう言うんですね。そんなことはないですよと、国がそう言っているんですからという、いや、国の言うことは信用できないと、こう必ず言って、正しい知識を共有することの難しさというものを今実感としております。

課題がいくつもございます。いくつもございますが、あんまり地元では大きな声では言えませんが、例えば要支援者がなかなか、名簿をつくっておりますけれども、これはいわゆ

る個人情報の問題で名前が出てまいりません。いざという時に心配です。それから、沼津は御用邸もあるぐらいで非常にいい海がございますので、海のそばにプレジャーボートがたくさん係留されております。それが、いざという時には全部凶器になりますので、これをどうするかという問題もあります。

それから、今私どもは津波津波と言って津波を恐れていますけれども、次に来る地震が、次に来る災害が本当に津波なのかというのは大変疑問ですね。むしろ、やはり火事だとか家屋の倒壊とか、そういう対策はもちろんやっておりますよ、家屋の倒壊対策はやっておりますけれども、もう頭には津波しかないんですね。そういったことについて、実際に次に来る災害が津波だろうかということは、思っておりますけれども、市民の皆さんは津波津波と、こう思っておりますので、非常に私どももやりにくいところもございます。

いずれにしましても、最後は自分たちで自分たちの命を守ってねと、もうこれしかありませんので、そういうことを言い続けながら地域の皆さんと一緒に防災対策を講じているというところでございます。

ご参考になったかどうかわかりませんが、ご清聴ありがとうございました。